

前向きな話

私の先輩たちは、俗に『団塊の世代』と言われています。この方々は単に人口比率が多いというだけでなく、現代社会の構成に大きな役割を果たしてきました。子供のころは小中学校が増築されました。若かりしころは音楽でもファッションでもこの方たちがリードしていました。学園紛争は若さの象徴だったのでしょう。同棲という言葉が流行ったのですが、私の身近にも何組かいました。スポーツカーに乗り颯爽と走る姿は、大人たちにしてみれば厄介者だったでしょう。結婚して子供をもうけ、アパート暮らしから新興住宅地に居を構える人もいました。新しい町を造ったのもこの方たちなのです。視点を変えれば、常に社会がこの方々を見ていたといえます。バブル期には働き盛りで、支店長、部長クラスもたくさんいました。

そして今、この方々は退職の時を迎えました。政府はこれ以降、日本は立ち行かなくなるかのようには喧伝しています。これまで日本をリードしてきた方々が、座して朽ち果てるというのは本当でしょうか。確かに退職金問題は一大事です。企業経営を圧迫したり、自治体の運営にも大きな影響



蒲郡市民会館

指定管理者制度により本年度から民間団体管理となった

が出るでしょう。しかし、これは一時的なもので必ず乗り越えられます。ただし、社会機構の変更は余儀なくされます。

例えば、蒲郡市に於いても指定管理者制度が取り入れられました。これは市の外郭団体である、蒲郡都市施設管理協会が管理していた施設などの管理を民間団体に任せようという制度です。天下り先を温存することなく、公平にそして果敢に制度運用すれば、団塊の世代の方々が活躍できるチャンスはあります。これは市民の皆様(公務員を含め)にとっても良いことです。ちなみに十八年度は四千五百万円程度の節約ができます。一件の金額が少なくても、一つずつ積み上

げれば大きな経費削減ができるでしょう。この流れはこれからも続いていくでしょうが、これだけでは十分とはいえません。蒲郡市としてすぐにできる規制緩和は他にもあるでしょう。しかし、公的機関を身軽にするだけでは民間活力を使うといっても限界があります。マンパワーを発揮する場合は団塊の世代の方々自身によっても創り出されるでしょう。ここで行政に求められることは彼らをフォローするソフトです。例えば、NPOなどの団体を作る指導講座を設けたり、起業家講座を設けたりするのも良いでしょう。ここは行政側が掴んでいる、加工をしていない生の情報を提供しましょう。情報開示で一番求められているものはまさしくこれです。後は夢を語ることもできるシステムを造ることで。その時、団塊の世代の方々自身で上昇気流を掴むでしょう。

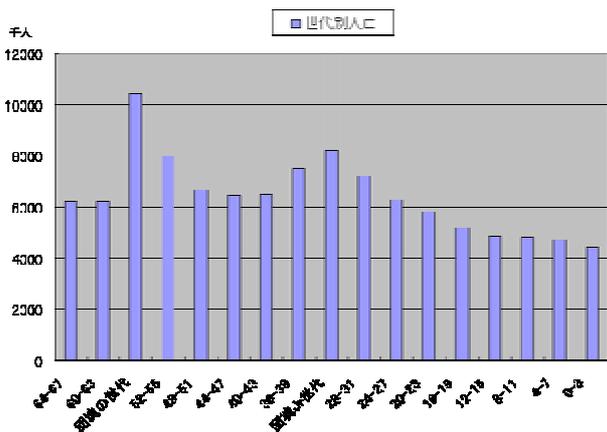
前向きになりたい話

最近『トト』という言葉がマスコミを賑わしております。それ以前は『リーダー』でした。これらは何れも社会の暗部を言い表しているかのようには扱われています。その殆どは政府の喧伝で、年金掛け金を納めない、税金を払わないから問題だといったわけです。

実際には、この主原因が政府にあるということが理解できていないのが問題なのです。少し振り返ってみましょう。

まず、フリーター世代がどこにあるかを考えます。すると概ね三十代前半で、これは団塊世代の子供たち団塊ここにあたります。では、親である団塊の世代が悪いのかというと、そうではありません。実は、団塊の就職期は今から十五年ほど前でした。この時はちょうどバブル経済が崩壊して大リストラ期と重なっています。つまり、就職したくても思うようにできなかった時代です。エターンやUターンという言葉が流行ったのもこのころです。世代人口が多いことも重なり、思うように就職できなかったことは当然です。多くは目指す企業の求人が出るまでアルバイトで繋ごうと前向きの姿勢でいました。結果として、能力があるにも拘わらず取り残されてしまった人々を生み出してしまいました。原因は、消費税導入による景気失速とその後の過度の金融引き締めにあることは明白です。

このような経緯から、団塊の世代の会社に対する忠誠心が薄いのもうなずけます。当然のごとく社会への協調性も失われていきます。そして今



を、さも楽観的に生きている先輩の姿を見れば「それもありが」と後輩たちが行き着いた先が二トトではないでしようか。「この流れを把握し、問題を解かねばなりません。」

ところで、二トトとは言っても何もできない人ではないことを理解しなくてはなりません。彼らは最新技術に慣れ親しみ、流行には敏感に反応しています。彼らには時間とチャンスが必要です。

フリーターの生活様様は後ろ向きかもしれませんが、それを責めることはできません。今では、行政側も民間側も求めている就業形態に合致しているのがこの人たちです。年金保険料の半額負担を嫌い、短期で必要な労力

だけを求めているのです。全て政府の政策に合わせ、生き残るための対策なのです。したがって、政府が正しいとするなら、私たちはフリーター、二トトと言われる人たちを前向きに受け入れなければなりません。

さて、私たちが最も注意を払わなければならないのは、ワーキングプアといわれる人たちのことです。これは、一生懸命働いているにもかかわらず、生活がままならない人たちのことを指す言葉です。

より良い生活を求めている人たちを生かすには、単なる職業斡旋システムだけでは不十分でしょう。これからは、人材と多くの情報を提供できる事業形態が求められるでしょう。厚生労働省の既得権を侵害しないように、多くの情報を持った地方公共団体によって組織建てることできるかもしれない。多くの情報を持った団塊世代の方々自身による、その横の繋がりを、その子供たちである団塊「」世代の縦の繋がりを生かした組織もできるとしよう。

もちろん、これだけでは済みません。多くの名案を出すために、多くの人々の知恵の提供が望まれます。

怒りを覚える話

以前は子供の誘拐といえは身代金目的が殆どで、子供に対する残虐な行為は余りありませんでした。ところが近年では残虐行為を目的とした誘拐が殆どなくなっています。自己の欲望を満たすだけでなく、インターネット社会の負の効果として、子供たちの写真が売買されてもいます。そのような中で不安を増長するものは、犯罪者の傾向を一口で言い表すことができないことです。子供からの信頼を得るために、じっくりと時間をかけている場合もあります。これは、被害者親族の方だけでなく、一市民としても怒りを抑えることができない卑劣な犯罪です。これに対し、私たちができるとは多くはありません。そのような中で有効な手立ては一つ、防犯パトロールだけです。ところがこれも保護者がやるだけでは限界があります。市民の皆様にご協力をお願いし、そのお力添えに頼らざるを得ません。

このような中、多くの小学校でスクールガードといわれる防犯ボランティア組織が立ち上げられました。これは、PTAはもちろん、学区総代会にもボランティア募集を呼びかけられました。活動時間は登下校に合わせ朝一時間、夕三時間程度でしょう。活動方法は引率でなくてもかまいません。

ん。通学路上、または自宅前での立ち番でも良いでしょう。それでも、これで十分とはいえません。継続性を持たせることも重要です。市民の方々の善意による活動ですから仕方ありませんが、実際には、人目に付きにくいところは巡回が必要でしょう。

そこで提案ですが、活動に幅を持たせるため、一小学校区に一人ずつは有償ボランティア巡回員を置くべきでしょう。有償とは言ってもそれほど金がかかるわけではありません。変質者にとっても子供の動きが掴みづらい休日(夏休みや冬休みを含む)は巡回員の方にもお休み頂けるでしょう。

自己紹介

新実祥悟

住所 蒲都市鹿島町西郷八九

電話(FAX) 08-4615

公的経歴

- 消防団第七分団班長
- 地区体育委員
- 鹿島町区議員(青少年健全育成担当)
- 塩津中学校PTA会長
- 蒲都市指定管理者選定委員
- 都市マスタープラン立案住民会議員
- 保護司(蒲郡保護司会理事)
- 元会社役員
- 衆議院議員元秘書